

株 主 各 位

東京都港区芝三丁目8番2号
株式会社エヌジェイホールディングス
代表取締役社長 筒井俊光

第29回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第29回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクが存在していることを鑑み、株主の皆様におかれましては書面により事前に議決権を行使いただき、株主総会当日のご来場をお控えくださいますようお願い申し上げます。

お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2020年9月28日（月曜日）午後6時30分までに到着するようご送付くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2020年9月29日（火曜日）午前10時
（開催日が前回定時株主総会日（2019年6月26日）に相当する日と離れておりますのは、第29期より当社の事業年度の末日を3月31日から6月30日に変更したためであります。）
 2. 場 所 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館 地下1階
A P 浜松町 N+Oルーム
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
 3. 目的事項
報告事項
 1. 第29期（2019年4月1日から2020年6月30日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第29期（2019年4月1日から2020年6月30日まで）計算書類報告の件
- 決議事項
- 第1号議案 剰余金の処分の件
 - 第2号議案 取締役5名選任の件
 - 第3号議案 監査役1名選任の件

以 上

-
1. 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、議事資料としてこの「招集通知」をご持参くださいますようお願い申し上げます。

2. 本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結計算書類の「連結注記表」及び個別計算書類の「個別注記表」につきましては、法令及び定款第14条の規定に基づき、当社ホームページ (<https://www.njhd.jp/ir/library/generalmeeting/>) に掲載しておりますので、提供書面には掲載しておりません。
なお、監査役及び会計監査人が監査した「連結計算書類」及び「計算書類」は、本招集ご通知の提供書面に記載の各書類のほか、当社ホームページに記載しております「連結注記表」及び「個別注記表」となります。
3. 株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、当社ホームページ (<https://www.njhd.jp/ir/library/generalmeeting/>) に掲載させていただきます。
4. ご来場の株主様は、マスクの着用をお願い申し上げます。また、ご来場の際、検温をさせていただきます、発熱・咳など体調不良とみられる方は入場をお断りさせていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。
5. 座席間隔を広く保つため、入場を制限させていただきますことがございます。
6. 株主総会運営スタッフは、検温を含め、体調を確認のうえ、マスク着用で対応をさせていただきます。

(提供書面)

事業報告

(2019年4月1日から
2020年6月30日まで)

当社は、2019年6月26日の第28回定時株主総会の決議により、事業年度を従来の3月31日から6月30日に変更いたしました。

これにより、当第29期事業年度が2019年4月1日から2020年6月30日までの15ヵ月となったため、当連結会計年度の事業報告においては業績に関する前期比増減の記載を省略しておりますのでご了承くださいますようお願い申し上げます。

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、通商問題はじめ海外経済の動向に弱さが見られるも、緩やかな回復が続いておりましたが、新型コロナウイルスの世界的な流行により、国内の経済活動にも影響を及ぼし、景気が急速に悪化するなど厳しい状況が続きました。

ゲーム業界におきましては、スマホゲーム市場では、新たなヒットタイトルも登場しているものの、既存人気タイトルが長寿傾向を見せており、新規ユーザーの獲得ハードルは高くなっております。コンシューマー市場及びPCゲーム市場では、既存人気タイトルだけでなく新規タイトルにおいても多くの注目タイトルの発売等があって、各種ゲーム専用機の販売も好調であります。各市場総じて、新規タイトルの期待値水準の上昇から、開発規模の大型化や長期化による開発コストの増加の傾向が続いており、大型タイトルにおいては長期的なコンテンツ戦略もあって、この傾向は強くなっております。新型コロナウイルスによる影響に関しては、巣ごもり需要などによりオンラインコンテンツの利用が伸びるなか、ゲームアプリのダウンロード数も増加しており、パッケージタイトルも堅調な販売が続いております。

モバイル業界におきましては、分離プランや値引き規制等の法改正が施行されるなか、最新機種やハイエンド機種の値頃感減少から、端末の出荷台数は例年を下回って推移しております。この状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外出自粛要請等により、例年と比べて春商戦期の盛り上がりが見られず、端末メーカーのサプライチェーンへの影響もあって、出荷台数は低調となりました。

このような事業環境のなか、当社は、ゲーム事業におきましては、Windows7のサポート終了対応や生産性維持のため、開発機材の更新や各種開発ソフトウェア導入などの開発環境の整備を進めました。また、開発及び運営サポートの小規模・短期案件や終了案件等による人

材リソースの空き稼働の対策に取り組んでまいりました。モバイル事業におきましては、端末値引き上限導入に伴う駆け込み需要の取り込みと、その後の反動に対しては、3G停波に伴う買い替え需要の取り込みや格安SIMの販売を強化し、1台当たり粗利単価の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の連結業績につきましては、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度決算におきまして、従来「販売費及び一般管理費」として表示していた諸費用の一部を、「売上原価」として表示する方法に変更いたしました。この変更は、ゲーム事業の規模が拡大する中、これらの諸費用の重要性が高まってきたことから、費用収益の対応をより明確にすることにより、当社グループの売上総利益、販売費及び一般管理費をより適正に表示するために行ったものであります。

売上高は、ゲーム事業においては、ウィットワンにて承継したゲーム運営サポート事業の通期寄与や決算期変更にて15ヶ月決算であることにより増収となりました。また、当該影響を受けない四半期推移においても、開発中タイトルの開発進捗に伴う体制拡大等により増収基調となりました。モバイル事業においては、消費税増税や改正電気通信事業法の施行後の影響が続くなか、新型コロナウイルスの影響から春商戦期が例年と比べて盛り上がりせず、また、感染拡大防止のため営業時間の短縮や臨時休業を実施したことから、販売台数は低調に推移いたしました。この結果、売上高は、14,491百万円（前期は売上高11,064百万円）となりました。

営業利益及び経常利益は、ゲーム事業においては、第4四半期連結会計期間に前倒しで利益計上となった案件があったことや、開発体制の拡充が予定どおり進まなかったことから、第5四半期連結会計期間においては計画を下回りましたが、開発及び運営サポートの小規模・短期案件終了等の影響によって低下していた人材リソースの稼働率が順調に改善したこと等により、通期としては概ね計画どおりとなりました。モバイル事業においては、格安SIMやミドルレンジ端末の販売に注力し販売台数の回復に努めるとともに、1台当たり粗利単価の改善や販管費削減の取り組みにより、新型コロナウイルスに伴う臨時休業等の減益影響を概ね取り返しました。この結果、営業利益は、205百万円（前期は営業利益308百万円）となり、経常利益は、207百万円（前期は経常利益299百万円）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、繰延税金資産の取崩等により、法人税等調整額が増加した結果、27百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益185百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、前期の第2四半期連結累計期間より、セグメント区分を変更しております。前期の第1四半期連結累計期間まで独立したセグメントであった人材ソリューション事業について、連結業績に占める割合が低下したことから、その他事業に含めております。

①ゲーム事業

当セグメントにおきましては、(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース及び(株)ウィットワンにてゲームの開発受託及び運営受託等を行っております。

なお、(株)ブーム、(株)エヌジェイワンは、2019年8月23日付「連結子会社3社間の経営統合に関するお知らせ」のとおり、(株)ウィットワンを統合先として、2019年11月1日付にて統合を完了しております。

当連結会計年度におきましては、売上高については、ウィットワンにて承継したゲーム運営サポート事業の通期寄与や決算期変更にて15ヶ月決算であることにより増収となり、また、当該影響を受けない四半期推移においても、増収基調で推移したことで、10,437百万円（前期は売上高6,548百万円）となりました。

セグメント利益（営業利益）については、第4四半期連結会計期間に前倒しで利益計上となった案件があったことや、開発体制の拡充が予定どおり進まなかったことから、第5四半期連結会計期間においては計画を下回りましたが、開発及び運営サポートの小規模・短期案件終了等の影響によって低下していた人材リソースの稼働率が順調に改善したこと等により、通期として概ね計画どおりとなり、535百万円（前期はセグメント利益（営業利益）525百万円）となりました。

②モバイル事業

当セグメントにおきましては、(株)ネブロクリエイトにてauショップ等のキャリアショップ及び複数の通信事業者の端末・サービスを取り扱う販売店PiPoPark（ピポパーク）を運営しております。

当連結会計年度におきましては、売上高については、消費税増税や改正電気通信事業法の施行後の影響が続くなか、新型コロナウイルスの影響から春商戦期が例年と比べて盛り上がり、また、感染拡大防止のため営業時間の短縮や臨時休業を実施したことから、販売台数が低調に推移した結果、3,966百万円（前期は売上高4,146百万円）となりました。

セグメント（営業利益）については、格安SIMやミドルレンジ端末の販売に注力し販売台数の回復に努めるとともに、1台当たり粗利単価の改善や販管費削減の取り組みにより、新型コロナウイルスに伴う臨時休業等の減益影響を概ね取り返した結果、132百万円（前期はセグメント利益（営業利益）119百万円）となりました。

③その他

当セグメントにおきましては、クレジット決済事業及び外食事業等を行っております。

当連結会計年度におきましては、人材ソリューション事業を構成していた(株)トーテックが前期の第2四半期連結会計期間より連結子会社から持分法適用会社へ異動したことから、売上高は、100百万円（前期は売上高391百万円）となりました。

セグメント損益（営業損益）については、1百万円のセグメント損失（営業損失）（前期はセグメント損失（営業損失）5百万円）となりました。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資については、ゲーム開発、店舗設備の移転・改装等を目的とした設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は183百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

① ゲーム事業

当連結会計年度の主な設備投資は、ゲーム開発等に伴い、174百万円の設備投資を行いました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

② モバイル事業

当連結会計年度の主な設備投資は、店舗の改装による内装工事等に伴い、4百万円の設備投資を行いました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

③ その他

当連結会計年度は、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

④ 全社共通

当連結会計年度は、4百万円の設備投資を行いました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度においては、当社グループの将来の資金需要に備え、機動的且つ安定的な資金調達手段の確保を目的とし、2020年3月19日開催の取締役会において、株式会社三井住友銀行をアレンジャーとする総額1,405百万円（コミットメントライン及びタームローン）のシンジケートローンの組成を決議いたしました。当連結会計年度末の本借入残高は734百万円であります。

(4) 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

(5) 対処すべき課題

事業拡大に取り組む一方で、収益規模拡大に応じた利益の確保、事業の効率性及び生産性等の改善が課題であり、また、中長期的な収益力向上につながる投資として、人材面及びソフトウェア・設備面への投資並びにM&Aなどへの継続的な取り組みも重要であると認識しておりますが、各事業における課題は、下記のとおりです。

① ゲーム事業

- ・ディレクション人材の育成及び採用強化
- ・グループ横断の技術サポート体制及びナレッジベース共有の強化
- ・技術開発の強化及び業務効率向上への利活用

② モバイル事業

- ・店舗マネジメント人材の育成
- ・事業環境の変化に適応した柔軟で迅速な販売施策の実施
- ・ストック収益の増加

(6) 財産及び損益の状況

区 分	第26期 2017年3月	第27期 2018年3月	第28期 2019年3月	第29期 2020年6月 (当連結会計年度)
売上高 (千円)	9,427,389	11,328,815	11,064,288	14,491,005
経常利益又は経常損失(△) (千円)	△366,467	667,357	299,282	207,947
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	△632,220	519,447	185,402	27,096
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△) (円)	△119.82	98.45	35.03	5.12
総資産 (千円)	5,285,632	6,193,833	7,356,316	6,284,863
純資産 (千円)	2,677,125	3,188,070	3,314,165	3,349,372
1株当たり純資産額 (円)	463.25	581.79	604.14	606.96

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は当期純損失は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。また、発行済株式総数から自己株式数を控除して算出しております。
 なお、当社は、2018年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割しております。第26期事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益又は当期純損失及び1株当たり純資産額を算定しております。
2. 『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第28期の期首から適用しており、第27期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標となっております。
3. 第29期(当連結会計年度)につきましては、事業年度の変更に伴い、2019年4月1日から2020年6月30日までの15ヵ月間となっております。

(7) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社との関係

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	所在地	資本金	当社の出資比率	主要な事業内容
(株)ゲームスタジオ	東京都港区	70,000千円	100.0%	ゲーム事業
(株)トライエース	東京都港区	50,000千円	79.0%	ゲーム事業
(株)ブーム	東京都港区	40,000千円	100.0%	ゲーム事業
(株)ウィットワン	東京都港区	164,000千円	100.0%	ゲーム事業
(株)ネプロクリエイト	東京都港区	50,000千円	84.9%	モバイル事業

(注) 「主要な事業内容」欄には、セグメント名称を記載しております。

③ 事業年度末日における特定完全子会社の状況

該当事項はありません。

(8) 主要な事業内容

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社と連結子会社5社((株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)ブーム、(株)ウィットワン、(株)ネプロクリエイト)及び持分法適用会社1社((株)トーテック)の計7社で構成されており、ゲーム事業及びモバイル事業を主な事業として取り組んでおります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

「ゲーム事業」は、連結子会社である(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)ブーム及び(株)ウィットワンにてゲームの企画・開発及び運営を行っております。

(主な関係会社)(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)ブーム及び(株)ウィットワン

「モバイル事業」は、連結子会社である(株)ネプロクリエイトにて特定の移動体通信事業者の端末・サービスを取り扱うキャリアショップ及び複数の通信事業者の端末・サービスを取り扱う販売店PiPoPark(ピポパーク)を運営しております。

(主な関係会社)(株)ネプロクリエイト

「その他」は、クレジット決済事業、外食事業等を行っております。

(主な関係会社)当社

(9) 主要な営業所及び工場

① 本 社：東京都港区

② 店 舗

地区	子会社(株)ネプロクリエイトの 運営店舗(キャリアショップ及び販売店)
栃 木 県	2店
千 葉 県	1
群 馬 県	4
東 京 都	4
神 奈 川 県	1
京 都 府	2
大 阪 府	4
合計	18店

(10) 従業員の状況

① 企業集団の従業員数

従 業 員 数	前期末比増減
801名	142名増

(注) 従業員数には、臨時従業員(期中平均雇用人員34名)は含まれておりません。

② 当社の従業員数

従 業 員 数	前期末比増減	平 均 年 齢	平均勤続年数
18名	3名増	41.9歳	7.2年

(注) 従業員数には、臨時従業員(期中平均雇用人員6名)は含まれておりません。

(11) 主要な借入先及び借入額

借 入 先	借 入 残 高
(株)三井住友銀行	469,890千円
(株)千葉銀行	460,000千円
(株)きらぼし銀行	265,003千円
(株)三菱UFJ銀行	213,345千円
(株)東京スター銀行	115,000千円
(株)東日本銀行	65,000千円

(12) その他企業集団の現況に関する重要な事項
該当事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 17,954,400株
(2) 発行済株式の総数 5,350,400株 (自己株式57,550株を含む。)
(3) 株 主 数 1,135名 (前期末比373名増)
(4) 大 株 主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
(有)リーコム	1,592,400 株	30.09 %
滝西 竜子	1,008,600	19.06
中村 英生	571,800	10.80
上田八木短資(株)	200,000	3.78
小野 昭	138,500	2.62
小松 聡	98,000	1.85
(株)SBI証券	78,500	1.48
楽天証券(株)	63,600	1.20
宮本 浩次	56,700	1.07
ネプロジャパン役員持株会	47,300	0.89

(注) 持株比率は、自己株式(57,550株)を控除して計算しております。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権等の状況
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として当社使用人等に交付した新株予約権等の状況
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等に関する重要な事項

当社が、2017年12月22日開催の取締役会決議に基づいて発行した新株予約権は次のとおりであります。

2018年3月6日付の取締役会決議により、2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数(株)」、「新株予約権の行使時の払込金額(円)」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価額及び資本組入額(円)」が調整されております。

決議年月日	2017年12月22日	
新株予約権の数(個)	348	
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	
新株予約権の目的となる株式	普通株式	
新株予約権の目的となる株式の数(株)	69,600(注)1	
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,853(注)2	
新株予約権の行使期間	2018年7月12日から2028年1月11日までとする。	
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価額及び資本組入額(円)	発行価額	1,853
	資本組入額	927

<p>新株予約権の行使の条件</p>	<p>1. 本新株予約権の割当日から行使期間の終期に至るまでの間に、当社が上場する金融商品取引所における当社普通株式の普通取引の終値が一度でも行使価額（ただし、「本件新株予約権の行使に際して出資される財産の価額または算定方法」に準じて取締役会により適切に調整されるものとする。）の35%を乗じた価格を下回った場合、本新株予約権の割当を受けた者（以下、「新株予約権者」という。）は残存するすべての新株予約権を行使価額（ただし、「本件新株予約権の行使に際して出資される財産の価額または算定方法」に準じて取締役会により適切に調整されるものとする。）にて行使期間の満了日までに権利行使しなければならないものとする。ただし、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。</p> <p>(a) 当社の開示情報に重大な虚偽が含まれることが判明した場合</p> <p>(b) 当社が法令や当社が上場する金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合</p> <p>(c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他割当日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合</p> <p>(d) その他、当社が新株予約権者の信頼を害すると客観的に認められる行為をなした場合</p> <p>2. 新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の権利行使は認めないものとする。</p> <p>3. 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。</p> <p>4. 各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。</p>
<p>新株予約権の譲渡に関する事項</p>	<p>新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。</p>
<p>代用払込みに関する事項</p>	<p>—</p>

組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記「新株予約権の目的となる株式の数」に準じて決定する。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、「本件新株予約権の行使に際して出資される財産の価額または算定方法」で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、「新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数」に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記「新株予約権の行使期間」に定める行使期間の末日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価額及び資本組入額」に準じて決定する。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) その他新株予約権の行使の条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。

(9) 新株予約権の取得事由及び条件

上記「新株予約権のうち自己新株予約権の数」に準じて決定する。
その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

(注) 1. 付与株数の調整

付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割（または併合）の比率

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割または資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

2. 行使価額の調整

本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割（または併合）の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合（新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。）、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等（2020年6月30日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	ついつい としみつ 筒井 俊光	(株)トライエース 取締役 (株)ゲームスタジオ 取締役 (株)ネプロクリエイト 取締役 (株)ウィットワン 代表取締役社長
取締役	ふくだ たかひろ 福田 尚弘	(株)ゲームスタジオ 代表取締役 (株)トライエース 取締役
取締役	なかのきいちろう 中野喜一郎	日東工業(株) 代表取締役社長
取締役	みやた あきひこ 宮田 彰彦	(株)AMA 代表取締役社長 さざれキャピタルマネジメント(株) マネージングディレクター
常勤監査役	かめざわ のぶひで 亀澤 宣秀	
監査役	たばた ひろゆき 田端 博之	A. C. アシュアランス(株) 代表取締役社長
監査役	むらもと みちお 村本 道夫	カクイ法律事務所 パートナー弁護士

- (注) 1. 宮田彰彦氏は、社外取締役であります。
 2. 田端博之及び村本道夫の両氏は、社外監査役であります。
 3. 取締役宮田彰彦氏は、東京証券取引所の定めに基づき届け出た独立役員であります。
 4. 監査役田端博之及び村本道夫の両氏は、東京証券取引所の定めに基づき届け出た独立役員であります。
 5. 監査役田端博之氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く）及び監査役全員と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、金100万円または会社法第425条第1項に定める額を責任の限度としております。

(3) 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	支給人員	報酬等の額
取締役 (うち社外取締役)	4名 (1名)	68,400千円 (6,000千円)
監査役 (うち社外監査役)	3名 (2名)	19,950千円 (8,700千円)
合 計	7名	88,350千円

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 取締役の報酬限度額は、2005年6月29日開催の第14回定時株主総会において、年額150,000千円以下（ただし、使用人分給与は含まない）と決議いただいております。
 3. 監査役の報酬限度額は、2002年6月27日開催の第11回定時株主総会において、年額30,000千円以下と決議いただいております。

(4) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先である法人等と当社との関係

社外取締役宮田彰彦氏は(株)AMAの代表取締役社長並びにさざれキャピタルマネジメント(株)のマネージングディレクターであります。なお、当社と(株)AMA並びにさざれキャピタルマネジメント(株)との間には、特別の関係はありません。

社外監査役田端博之氏はA.C.アシュアランス(株)の代表取締役社長であります。なお、当社とA.C.アシュアランス(株)との間には、特別の関係はありません。

社外監査役村本道夫氏はカクイ法律事務所のパートナー弁護士であります。なお、当社とカクイ法律事務所との間には、特別の関係はありませんが、同氏個人にはコンプライアンス委員としての業務を委託しております。

② 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	主な活動状況
社外取締役	宮田 彰彦	当事業年度に開催された取締役会24回のうち24回に出席いたしました。主に長年培ってきた投資・運用の業界での経験に基づく幅広い見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。
社外監査役	田端 博之	当事業年度に開催された取締役会24回のうち24回に出席し、監査役会15回のうち15回に出席いたしました。主に公認会計士の見地から会計的な意見を述べるなど、取締役会及び監査役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。
社外監査役	村本 道夫	当事業年度に開催された取締役会24回のうち24回に出席し、監査役会15回のうち15回に出席いたしました。主に弁護士の見地から法律的な意見を述べるなど、取締役会及び監査役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称 三優監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

	支 払 額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	38,000千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	38,000千円

- (注) 1. 当社監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、職務遂行状況、報酬見積もりの算定根拠等を確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当該事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨の規定を定款第47条に定めておりますが、責任限定契約は締結しておりません。

(5) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合には、監査役会の決議により会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合には、監査役会は監査役の全員の同意により会計監査人を解任いたします。

6. 会社の体制及び方針

(1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は、当事業年度末日現在、以下のとおりであります。

- ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・取締役及び使用人はその職務の執行に当たり、別に定める「コンプライアンス・マニュアル」を遵守するものとする。
 - ・コンプライアンス経営確立のため、法令遵守の統括部門を定めるほか、外部弁護士を委員長とするコンプライアンス委員会を取締役会の直属の機関として設置する。
 - ・内部監査室は、別に定める「内部監査規程」に基づき内部監査を行い、その結果を代表取締役社長に報告するものとする。
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ・取締役の職務の執行に係る文書及び情報については、別に定める「文書管理規程」及びその他社内規程に基づき適切に保存・管理を行うものとする。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ・損失の危険の管理に関する規程その他の体制については、別に定める「リスク管理規程」及びその他社内規程に基づき、業務上のリスクの未然防止及びトラブル発生時における迅速・適切な対応を図るものとする。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、取締役会は各取締役の職務の執行を監督するものとする。
 - ・取締役会の機能強化と迅速な意思決定を目的として、取締役員数の適正化を図るとともに、業務執行体制の強化を目的とした執行役員制度を導入し、効率的な業務執行を図るものとする。
- ⑤ 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・別に定める「関係会社管理規程」に基づき、当社グループ各社が職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制、損失の危険の管理に関する規程その他の体制、職務の執行が効率的に行われること及び法令や定款に適合することを確保する体制を構築するなど、当社グループにおける業務の適正運営に努めるものとする。
 - ・内部監査室は、別に定める「内部監査規程」に基づき関係会社に対し、業務活動が法令及び定款等に準拠して適正かつ効率的に運営されているかを監査するものとする。
- ⑥ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に關する体制
 - ・監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、これに応じるものとする。

⑦ 前項の使用人について、取締役からの独立性及び監査役の指示の実効性の確保に関する事項

- ・当該使用人は、監査役の職務を補助する職務執行の範囲において、取締役から独立して監査役の指示に従うものとする。
- ・当該使用人の人事異動、人事評価、懲戒処分等、雇用に係る重要事項については、あらかじめ監査役会の同意を得るものとする。

⑧ 取締役及び使用人並びに子会社の取締役、監査役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ・取締役及び使用人並びに子会社の取締役及び監査役は、当社監査役の求めにより、会社の業務または業績に影響を与える重要な事項について都度報告するものとする。
- ・本項の報告を行った者が、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないよう必要な措置を講ずるものとする。

⑨ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・取締役と監査役は積極的に意見交換を行い、適切な意思疎通を図ることにより、監査が実効的に行われるよう努めるものとする。
- ・監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理については、監査役の請求等に従い速やかに行うものとする。

(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当事業年度における当社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は、以下のとおりであります。

① 内部統制システム全般及びコンプライアンス

- ・当社は、当社及びグループ各社の取締役及び使用人を対象に、定期的にコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンス意識の向上に努めております。
- ・当社コンプライアンス委員会は、内部通報制度の利用状況、内部監査の実施状況等の情報を共有し、内部統制上の不備事項の有無を検討しております。委員会において内部統制上の不備事項が認められた場合には、委員会より当社取締役会に対して意見書を提出し、改善を求めています。また、コンプライアンス経営の推進や改善に努めるほか、実効性向上に努めております。
- ・当社内部監査室は、期初に作成した内部監査計画に基づき、当社及びグループ各社の業務活動が社内規程等に準拠して適正かつ効率的に運営されているかを監査し、その結果を代表取締役社長に報告しております。

② リスク管理体制

- ・当社は、2015年5月22日にリスク管理規程を制定し、毎月定期的に開催されるグループ経営会議において、当社及びグループ各社のリスク管理委員が業務上のリスク及びその管理状況を必要に応じて報告する体制を構築し運用しております。

③ グループ管理体制

- ・当社は、関係会社管理規程に基づき、グループ各社の職務執行状況をワークフローシステムによって把握するほか、当社代表取締役社長がグループ各社の取締役会に出席してグループ会社の経営状況や経営課題のほか職務執行が効率的に行われること及び法令や定款に適合することを確認する体制を構築し運用しております。

(3) 反社会的勢力排除に向けた体制

当社は以前より、法務省の「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」に基づき、反社会的勢力排除を目的とした下記の基本方針を定めて、対応を行っております。

- ・反社会的勢力による不当要求は、担当者や担当部署だけに任せず、代表取締役等の経営トップ以下組織全体として対応する。
- ・反社会的勢力による不当要求に対応する従業員の安全を確保する。
- ・反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、弁護士等の外部の専門機関と緊密な連携関係を構築する。
- ・反社会的勢力とは、取引関係を含めて一切の関係をもたない。また反社会的勢力による不当要求は拒絶する。
- ・反社会的勢力による不当要求に対しては、民事と刑事の両面から法的対応を行う。
- ・反社会的勢力による不当要求が、事業活動上の不祥事や従業員の不祥事を理由とする場合であっても、事案を隠ぺいするための裏取引を絶対に行わない。
- ・反社会的勢力への資金提供は、絶対に行わない。

上記の基本方針実現のため、対応を統括する部署・体制、情報の一元管理・蓄積、従業員に向けた研修、対応マニュアルの整備を進めております。

取引先に対しましては、反社会的勢力との関係において疑義が生じた場合、外部の調査機関に確認を依頼し、その結果により取引開始の可否を判断しております。また契約書締結に際し、反社会的勢力との関係が発覚した場合、契約を解除する旨の条項を盛り込むよう現在も努めております。

従業員等につきましては、入社時に誓約書におきまして過去の反社会的勢力との関係がない旨及び将来において反社会的勢力との関係を持たない旨の誓約をさせており、今後もこれを徹底して行ってまいります。

連結貸借対照表

(2020年6月30日現在)

(単位 千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	3,632,825	流動負債	1,894,840
現金及び預金	1,610,404	買掛金	538,367
売掛金	1,395,626	短期借入金	350,000
商 品	169,023	1年内償還予定の社債	40,000
仕掛品	224,402	1年内返済予定の長期借入金	347,576
貯蔵品	1,045	リース債務	225
その他	281,368	未払法人税等	9,017
貸倒引当金	△49,045	未払金	186,300
固定資産	2,652,037	賞与引当金	66,087
有形固定資産	244,563	その他の引当金	8,933
建物及び構築物	134,755	その他	348,332
リース資産	4,467	固定負債	1,040,650
その他	105,341	社 債	140,000
無形固定資産	1,228,967	長期借入金	710,662
のれん	982,381	リース債務	417
ソフトウェア	246,022	退職給付に係る負債	109,481
その他	564	その他	80,088
投資その他の資産	1,178,505	負債合計	2,935,491
投資有価証券	36,395	純資産の部	
長期貸付金	18,834	株主資本	3,212,542
投資不動産	110,685	資 本 金	592,845
差入保証金	886,665	資本剰余金	350,290
繰延税金資産	108,714	利益剰余金	2,328,518
その他	37,221	自己株式	△59,111
貸倒引当金	△20,010	新株予約権	34
資産合計	6,284,863	非支配株主持分	136,795
		純資産合計	3,349,372
		負債及び純資産合計	6,284,863

※ 単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

連結損益計算書

(2019年4月1日から
2020年6月30日まで)

(単位 千円)

科 目	金 額	金額
売 上		14,491,005
売 上 原 価		11,554,739
売 上 総 利 益		2,936,266
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		2,730,477
営 業 業 利 益		205,788
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	284	
不 動 産 賃 貸 料	27,802	
消 費 税 等 差 益	33,761	
助 成 金 収 入	6,285	
貸 倒 引 当 金 戻 入 額	2,432	
そ の 他	8,486	79,052
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	26,887	
支 払 手 数 料	11,536	
不 動 産 賃 貸 原 価	18,768	
持 分 法 に よ る 投 資 損 失	3,055	
店 舗 休 止 損 失	9,782	
そ の 他	6,863	76,893
経 常 利 益		207,947
特 別 損 失		
減 損 損 失	5,233	
投 資 有 価 証 券 評 価 損 失	6,373	11,606
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		196,340
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	104,933	
法 人 税 等 調 整 額	3,272	108,205
当 期 純 利 益		88,134
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		61,038
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		27,096

連結株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から
2020年6月30日まで)

(単位 千円)

残高及び変動事由	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	592,845	343,388	2,320,526	△59,111	3,197,648
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△52,928	—	△52,928
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	27,096	—	27,096
連結範囲の変動等	—	6,901	33,824	—	40,725
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	6,901	7,991	—	14,893
当期末残高	592,845	350,290	2,328,518	△59,111	3,212,542

残高及び変動事由	新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
当期首残高	34	116,482	3,314,165
当期変動額			
剰余金の配当	—	—	△52,928
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	27,096
連結範囲の変動等	—	△40,725	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	61,038	61,038
当期変動額合計	—	20,313	35,206
当期末残高	34	136,795	3,349,372

貸借対照表

(2020年6月30日現在)

(単位 千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	1,470,535	流動負債	773,087
現金及び預金	814,710	短期借入金	350,000
売掛金	2,758	1年内返済予定の長期借入金	307,580
前払費用	71,503	リース債務	225
短期貸付金	346,375	未払金	52,052
1年内回収予定の長期貸付金	90,000	未払費用	25,612
その他	145,188	未払法人税等	22,218
固定資産	2,554,733	賞与引当金	2,496
有形固定資産	131,688	その他	12,900
建物	107,856	固定負債	680,195
工具、器具及び備品	23,289	長期借入金	580,655
リース資産	542	リース債務	417
その他	0	退職給付引当金	24,591
無形固定資産	229	繰延税金負債	365
ソフトウェア	229	その他	74,165
その他	0	負債合計	1,453,282
投資その他の資産	2,422,815	純資産の部	
投資有価証券	2,241	株主資本	2,571,951
関係会社株式	1,649,066	資本金	592,845
長期貸付金	18,834	資本剰余金	298,394
投資不動産	110,685	資本準備金	171,553
差入保証金	405,811	その他資本剰余金	126,841
関係会社長期貸付金	247,500	利益剰余金	1,739,823
破産更生債権等	164,497	利益準備金	76,539
その他	3,543	その他利益剰余金	1,663,284
貸倒引当金	△179,364	繰越利益剰余金	1,663,284
資産合計	4,025,269	自己株式	△59,111
		新株予約権	34
		純資産合計	2,571,986
		負債及び純資産合計	4,025,269

※ 単位未満の端数処理は、切り捨て表示によっております。

損益計算書

(2019年4月1日から
2020年6月30日まで)

(単位 千円)

科 目	金	額
売 上 高		359,223
売 上 原 価		43,778
売 上 総 利 益		315,445
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		528,789
営 業 損 失		213,344
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	24,629	
不 動 産 賃 貸 料	16,350	
貸 倒 引 当 金 戻 入 額	2,432	
そ の 他	2,289	45,700
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	12,556	
不 動 産 賃 貸 原 価	7,838	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	46,337	
そ の 他	10,455	77,188
経 常 損 失		244,831
特 別 損 失		
投 資 有 価 証 券 評 価 損	6,373	6,373
税 引 前 当 期 純 損 失		251,205
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	△9,387	
法 人 税 等 調 整 額	40,103	30,716
当 期 純 損 失		281,921

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

(2019年4月1日から
2020年6月30日まで)

(単位 千円)

残高及び変動事由	株 主 資 本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	592,845	171,553	126,841	298,394
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純損失	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	592,845	171,553	126,841	298,394

残高及び変動事由	株 主 資 本				
	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	76,539	1,998,134	2,074,673	△59,111	2,906,802
当期変動額					
剰余金の配当	-	△52,928	△52,928	-	△52,928
当期純損失	-	△281,921	△281,921	-	△281,921
当期変動額合計	-	△334,850	△334,850	-	△334,850
当期末残高	76,539	1,663,284	1,739,823	△59,111	2,571,951

残高及び変動事由	新株予約権	純資産合計
当期首残高	34	2,906,836
当期変動額		
剰余金の配当	-	△52,928
当期純損失	-	△281,921
当期変動額合計	-	△334,850
当期末残高	34	2,571,986

独立監査人の監査報告書

2020年8月21日

株式会社エヌジェイホールディングス
取締役会 御中

三優監査法人
東京事務所
指定社員 公認会計士 齋藤浩史 ㊞
業務執行社員
指定社員 公認会計士 井上道明 ㊞
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社エヌジェイホールディングスの2019年4月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エヌジェイホールディングス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2020年8月21日

株式会社エヌジェイホールディングス
取締役会 御中

三優監査法人

東京事務所

指定社員

業務執行社員

公認会計士 齋藤浩史 ㊞

指定社員

業務執行社員

公認会計士 井上道明 ㊞

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社エヌジェイホールディングスの2019年4月1日から2020年6月30日までの第29期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年6月30日までの第29期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他、株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役、子会社の取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

以 上

2020年 8 月24日

株式会社エヌジェイホールディングス 監査役会

常勤監査役 亀澤 宣秀 ㊟

社外監査役 田端 博之 ㊟

社外監査役 村本 道夫 ㊟

以上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと考えており、中長期的な事業拡大及び新規事業開拓のための内部留保に配慮しつつ継続的な安定配当を行うことを基本方針としております。

当期につきましては、当期の業績、今後の事業展開および内部留保の状況等を総合的に勘案し、次のとおり期末配当をいたしたいと存じます。

- (1) 配当財産の種類
金銭といたします。
- (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金10円といたします。
なお、この場合の配当総額は金52,928,500円となります。
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2020年9月30日といたします。

第2号議案 取締役5名選任の件

取締役全員（4名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、経営体制の一層の強化を図るため、取締役1名を増員することとし、取締役5名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略 重 要	歴 、 地 な 位 兼 担 当 の 職 状 況	候補者の有する 当社の株式数
1	つ 井 とし みつ 光 (1974年12月25日生)		1997年4月 東洋信託銀行(株)（現三菱UFJ信託銀行(株)）入行 2001年4月 日本ベンチャーキャピタル(株)入社 2008年11月 当社入社 2010年6月 当社取締役常務執行役員経営管理本部長就任 2012年12月 当社代表取締役社長就任（現任） 2013年3月 (株)モバイル&ゲームスタジオ（現(株)ゲームスタジオ）取締役就任（現任） 2014年11月 (株)キャリアフリー（現(株)ネプロクリエイト）取締役就任 2015年3月 (株)トライエース代表取締役就任 2016年6月 (株)トーテック代表取締役社長就任 2017年5月 (株)ブーム代表取締役社長就任 2017年12月 (株)ウィットワン代表取締役社長就任（現任） 2018年6月 (株)トライエース取締役就任（現任） 2019年5月 (株)ネプロクリエイト取締役就任（現任） 2020年7月 (株)テックフラッグ取締役就任（現任） 現在に至る	35,846株
2	ふ く 田 たか 尚 ひろ 弘 (1969年2月18日生)		1991年4月 京成ハウジング(株)入社 2000年2月 当社入社 2010年3月 (株)モバイル&ゲームスタジオ（現(株)ゲームスタジオ）代表取締役就任 2011年9月 同社経営管理部マネージャー就任 2012年12月 同社代表取締役就任（現任） 2013年3月 当社取締役就任（現任） 2015年3月 (株)トライエース取締役就任（現任） 2017年6月 (株)ブーム取締役就任 2020年7月 (株)テックフラッグ取締役就任（現任） 現在に至る	13,025株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、 重要な 地 な 兼 職 の 状 況	候補者の有する 当社の株式数
3	なかの 中野喜一郎 (1941年4月12日生)	1964年4月 横浜ゴム㈱入社 1966年5月 日東工業㈱入社 同社代表取締役社長就任(現任) 2003年5月 東京アイテック㈱代表取締役就任 2005年3月 小金井ゴルフ㈱代表取締役就任 2010年6月 当社取締役就任(現任) 2013年3月 ㈱エイチ・アンド・エム・サポート 代表取締役社長就任 現在に至る	8,248株
4	みや 宮田彰彦 (1964年9月21日生)	1988年4月 東京海上火災保険㈱入社 1998年1月 東京海上キャピタル㈱出向 2006年6月 ダルトン・インベストメンツ㈱ 執行役員就任 2008年7月 同社取締役就任 2009年7月 ㈱AMA代表取締役社長就任(現任) 2012年5月 ㈱刈田・アンド・カンパニー パートナー就任 2015年5月 さざれキャピタルマネジメント㈱ マネージングディレクター就任(現任) 2017年6月 当社監査役就任 2018年6月 当社取締役就任(現任) 現在に至る	0株
5	ごたん 五反田義治 (1974年4月12日生)	1993年4月 ㈱日本テレネット入社 1995年3月 (有)トライエース(現㈱トライエース)入社 1996年8月 同社取締役就任(現任) 1999年3月 同社代表取締役就任(現任) 2015年6月 ㈱モバイル&ゲームスタジオ(現㈱ゲームスタ ジオ)取締役就任(現任) 2020年7月 ㈱テックフラッグ取締役就任(現任) 現在に至る	44,400株

- (注) 1. ※は新任の取締役候補者であります。
2. 上記候補者と当社との間に、特別の利害関係はありません。
3. 当社は、現在、中野喜一郎及び宮田彰彦の両氏との間で会社法第427条第1項に基づき、同法第423条第1項の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任限度額は、金100万円または同法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額となります。両氏が再任された場合、当社は両氏との当該責任限定契約を継続する予定であります。
4. 宮田彰彦氏は、社外取締役候補者であります。また、同氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
5. 宮田彰彦氏を社外取締役候補者とした理由は、長年の投資・運用業界での経験から企業価値向上に関する幅広い知見を有していること、また既に当社の社外取締役として、公正かつ客観的な立場に立って適切な意見をいただいております、今後も引き続き取締役会の意思決定に際して適切な指導をお願いできるものと判断し、社外取締役として選任をお願いするものであります。
6. 宮田彰彦氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって2年3ヵ月となります。また、同氏は、過去に当社の社外監査役でありました。

第3号議案 監査役1名選任の件

監査役亀澤宣秀氏は、本総会終結の時をもって辞任されますので、監査役1名の選任をお願いしたいと存じます。

また、本議案の提出につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、 重要な 地兼 職位の 状況	候補者の有する 当社の株式数
※ <small>かね</small> 金 <small>しげ</small> 重 <small>まさ</small> 政 <small>し</small> 志 (1960年8月7日生)	1982年4月 永代信用組合入組 1985年9月 ㈱スクウェア (現㈱スクウェア・エニックス・ホールディングス) 入社 2003年3月 デイップ㈱入社 2017年1月 当社入社 2017年1月 ㈱ゲームスタジオ出向 同社経営管理部マネージャー就任 (現任) 2020年7月 ㈱テックフラッグ監査役就任 (現任) 現在に至る	0株

- (注) 1. ※は新任の監査役候補者であります。
 2. 上記候補者と当社に、特別の利害関係はありません。
 3. 金重政志氏の監査役選任が承認可決された場合、当社は、同氏との間で会社法第427条第1項に基づき、同法第423条第1項の責任を限定する契約を締結する予定であります。当該契約に基づく責任限度額は、金100万円または同法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額となる予定であります。
 4. 金重政志氏は、現在㈱ゲームスタジオ経営管理部マネージャー在任中ですが、本総会終結の時までに退任する予定であります。

以上

